

2 - 1 世界天文年を紹介するには？

世界天文年のことをまだ知らない方もまだまだたくさんいます。どんな素材やどんな言葉を使えばわかりやすく伝えることができるのでしょうか。イベントを説明するときなど、あらゆる場面で「世界天文年とは何か」を紹介することがあるでしょう。世界天文年の紹介方法のヒントをいくつか列挙しました。

広報用の素材を活用

- ・世界天文年 2009 ホームページ
 - ・日本委員会の用意したリーフレットやポスター類
- を利用しましょう。また、パソコン画面を使えば、トレーラーやプロモーションムービーもぜひ活用してください。
- 無料素材については巻末資料編で触れています。

雑誌などの記事を参考に

さまざまな雑誌や機関誌などに世界天文年関連の特集記事や連載記事が掲載されています。世界天文年の趣旨をコンパクトにまとめてあったり、取り組みの概要がまとまっていたりするので、世界天文年のことを紹介するときに便利に使えることもあります。

- ・天文月報（日本天文学会）
- ・天文教育（天文教育普及研究会）
- ・サイエンスウィンドウ（独立行政法人 科学技術振興機構）

ほかにも、天文雑誌をはじめいくつかの商業誌でも関連記事が掲載されています。独自に取材している内容もあり、広報用の素材とはまた違った切り口の情報に触れることもあるでしょう。

インターネット上の情報も含め、アンテナの感度を高くしておきましょう。

ガリレオ・ガリレイについて知っておく

世界天文年は、「イタリアの科学者ガリレオ・ガリレイが初めて望遠鏡を夜空に向け、宇宙への扉を開いた 1609 年から 400 年」であることから、ガリレオ・ガリレイがどのような発見をしたか、どのような人物であったかを語れるようにしておくとい良いでしょう。「ガリレオ」は世界天文年に人に紹介するときの重要なキーワードのひとつです。ガリレオが望遠鏡の発明者であるとか、コペルニクスと混同して地動説の提唱者であるとするのはありがちな間違った紹介です。

ガリレオ・ガリレイは 1564 年にイタリア半島の北西部のトスカナ大公国領ピサで生まれました。

望遠鏡（後世望遠鏡と呼ばれるもの）を作って初めて夜空に向けたのは 1609 年で、パドヴァ大学教授時代です。

ガリレオの紹介にはさまざまな方法がありますが、初の望遠鏡による天体観測から 400 年という意味では、数々の発見をしたこと、天体観測によってコペルニクス体系の正しさを確認したこと、当時は天動説の時代であり、ガリレオの主張が異端とみなされ有罪となったことなどを、簡潔に取り上げるとよいでしょう。ガリレオは発明されたばかりの望遠鏡の噂を知り、自らの工夫で数多くの望遠鏡を作り上げ、望遠鏡を夜空へ向けて今まで誰も見たことのない天体の姿を確認し、スケッチや記録を残して出版しました。月面の地形（山やクレーターなど）の発見や、木星をまわる 4 つの衛星（ガリレオ衛星）の発見が有名ですが、ほかにも太陽黒点の観測から太陽が自転していること、金星の満ち欠け、火星の満ち欠け、月の秤動、天の川が星の集合であること、いくつかの星団が星の集まりであることなど、多くのことに気づいたり確認したりしています。

ガリレオの著書（日本語で読める主なもの）

- ・「星界の報告」（「星界の報告 他一篇」 岩波文庫）
- ・「天文対話」（上巻・下巻 岩波文庫）
- ・「新科学対話」（上巻・下巻 岩波文庫）

現代の望遠鏡との違いも強調しよう

ガリレオ式の光学系は、現代ではオペラグラスなど安価な双眼鏡で見かけますが、天体望遠鏡にはほとんど採用されていません。現代の屈折式天体望遠鏡の主流はケプラー式で、ガリレオ式のように正立像ではありませんが、広い視野や高い倍率を得やすく、ガリレオ式よりも格段に観察しやすいものです。ガラスの品質やレンズ加工の技術も当時とは比べ物になりません。市販の小型の天体望遠鏡であっても、大発見をしたガリレオが使ったものよりも、ずっとすぐれていると言えるでしょう。天体観測や、天体望遠鏡への興味付けとして現代の望遠鏡がすぐれたものであることを強調するとよいでしょう。

「世界天文年とは」要約文例

2009 年、イタリアの科学者ガリレオ・ガリレイが初めて望遠鏡を夜空に向け、宇宙への扉を開いた 1609 年から 400 年。国際連合、ユネスコ、国際天文学連合は、この記念すべき 2009 年を「世界天文年」と決めました。世界中の人々が夜空を見上げ、宇宙の中の地球や人間の存在に思いを馳せ、自分なりの発見をしてもらうこと。それが世界天文年の目的です。

(168 文字)